No.11　横須賀市立武山中学校

学校だより

【学校教育目標】
ゆたかな心を　育てる学校
「学力　文化　コミュニケーション」

令和2年 10 月 16 日
発行　校長　佐藤昌俊

精一杯やり切った　体育祭！

10 月 12 日(月)、台風一過とは言えませんでしたが、おかげさまで天候も回復し、２回延期しました「令和２年度体育祭」を行うことができました。本年度のスローガンは「雲外蒼天」です。しかし、台風の影響が残ったせいか、風が強く安全のため「デコ」を設置することはしませんでした。デコ団の生徒たちには申し訳ないという思いです。後日グランドのフェンスに設置しました。また、コロナ過の中であり、感染の軽減を図りながらの行事でした。種目内容も、100m、600m、少人数綱引き、ハンドボール投げ、学級対抗リレーと、例年とは大幅に異なるものでした。他の学校では応援をなくしたところもあったようですが、先輩から後輩へと、学校のよき伝統を直接的にも引き継げるものとして、体育祭における応援は意味あることと考えましたので、あえて残すこととしました。生徒たちは、できることの制約がある中、応援の仕方に工夫をこらしながら、カラー全体で応援メッセージを伝えてくれました。この取組を通して、１，２年生は３年生の後ろ姿から多くのことを学び、これから自分たちが目指す武中生としての姿と結びつけたくれたと思っています。

１，２年生の保護者の方々、そして平日開催ということでお仕事の調整がつかなかった３年生の保護者の方々、当日の参観の在り方を絞りましたので、多くの方にご覧いただくことができない体育祭でした。たいへん心苦しく思っています。ご理解・ご協力いただきましたこと、感謝申し上げます。

30 数年教職についていますが、このような体育祭は初めてです。これまで当たり前に実施していた体育祭が、ここまで影響を受けるとは・・・・。しかし、いつも思うのですが、子どもの力は偉大です。内容等の制限があっても、その中で一生懸命に取り組むことができます。体育祭当日もがむしゃらに走っている姿を見ていると、「あれもできない、これもできない、こんなことも我慢しなくてはいけない・・・・」などと、言っている自分が恥ずかしくなりました。今、できることを、精一杯やることの大切さを改めて、子どもたちから学びました。

令和２年度も後期に入りました。また一つ成長した子どもたち一人一人が次の目標をもって学校生活を送れるよう、教職員一同支えていきたいと思います。